

▲刊行にあたって▼

波照間 永吉

〔琉球文学大系〕編集刊行委員会委員長

琉球文学研究が始まって約二〇〇年が経つ。この間、伊波普猷・仲原善忠・外間守善・池宮正治など多くの研究者がこの未開の大地を耕して豊饒の沃野とし、さまざまな成果物を世に送ってきた。しかし、まだこの領域のテキストを体系的に整理し、研究者はじめ多くの人々に提供する仕事は成されていない。

「おもろさうし」や琉球歌謡のテキストについては、評価すべき仕事はなされているが、琉歌・組踊はじめ説話・沖縄芝居・琉球和文學・琉球漢文學、そして文學を支える歴史・民俗などの基礎資料を含めた、琉球文學を一望するテキストの制作がなされなくてはならない。琉球文學研究、そぞく琉球・沖縄文化研究の拡大と深化のために、研究水準を保ったテキストの整備が必要である。「琉球文學大系」構想し、その実現に向けて確たる一步を踏み出したことは、琉球文學研究にとしまます。ひらく琉球・沖縄文化研究の世界で特筆されることが、琉球文學研究は大きく裾野を広げることができるにちがいない。その概要是、全三十五巻。文學領域二十七巻、歴史領域四巻、民俗領域四巻である。これまでの研究の粹をあつめ、信頼される本文を構築し、細密な語注を施し、全卷に解説を付す。そして、現代語訳の必要な文献については可能な限り訳文も付けていく予定である。

今回、名桜大学が「琉球文學大系」を構想し、その実現に向けて確たる一步を踏み出したことは、琉球文學研究にとしまます。ひらく琉球・沖縄文化研究の世界で特筆されることが、琉球文學研究は大きく裾野を広げることができるにちがいない。その概要是、全三十五巻。文學領域二十七巻、歴史領域四巻、民俗領域四巻である。文學領域重要な部分とするが、文學と表記をなす歴史・民俗などの領域についてもその必須文献を収録することとしている。これを整備し公刊することによって、琉球・沖縄文化研究は大きく裾野を広げることができるにちがいない。その概要是、全三十五巻。文學領域二十七巻、歴史領域四巻、民俗領域四巻である。これまでの研究の粹をあつめ、信頼される本文を構築し、細密な語注を施し、全卷に解説を付す。そして、現代語訳の必要な文献については可能な限り訳文も付けていく予定である。

この事業の完成によって、ユネスコが「消滅危機言語」に琉球語の表現の豊かさ・多様性が多くの人々に共有されることになるだろう。未来につながる琉球語へ永遠の命を吹きこむ仕事をになるにちがいない。

一九九二年、関根貢司氏は「アンソロジイ（琉球弧の文學）の構想」（『省察』第四号）の中で、「琉球文學古典大系（あるいは全集、あるいは集成、全一〇〇巻）あるいは全六〇巻、少なくとも三十六巻）という企画を構想しなければならない」と書いた。我々の構想の魁であることを記しておきた。一方、氏はそれを「幻の」とし、その実現は「ほとんどの绝望的だ」とも書いた。しかし、今、氏が負の要素として挙げた研究者の協力態勢は整い、そして編集・刊行の経済的問題も、山里勝巳前学長の思想と沖縄への篤い思いに導かれて、名桜大学が本事業を地域文化への貢献事業と位置づけることによる、道が開けた。幻ではなくつながりがある。十年・十二年という時間は「琉球文學大系」の完成のためにはむしろ短い。世纪の大事業の完成に向けて心して歩んで行きたいと思っている。

琉球諸語による

琉球文学テキスト編さん事業

——公立大学の役割について

公立大学としての役割とは何かを問われると、「公共上の見地から確実に実施されることが必要な事業」という法の精神に行きつく。

一九九四年に名桜大学は沖縄本島の北部地域を指すヤンバルという地に私立大学で創立され、二〇一〇年公立大学としてさらなる歩みを始めた。「琉球文学大系」編集刊行事業は二〇一四年四月の大学院博士後期課程開設に伴い、スタートした。その英断は、当時の比嘉良雄理事長、山里勝巳学長によってなされ、本事業は沖縄県の高等教育機関が果たすべき役割として理事会に提起され、全会一致によく承認された。この事業の遂行は、本学が公立大学としての存在価値を決定づける仕事につながったと言える。

これまで「琉球諸語の文化と未來」については、その保存と活用が憂慮されていた。二〇〇九年に発表されたユネスコの「消滅危機言語」に琉球諸語が含まれていることを踏まえて、本学がスタートさせた全三十五巻十二年にわたる事業は「公共上の見地から確実に実施されることが必要な事業」に符合する。その重要な役割を名桜大学が担つたといふ意義は極めて大きい。

この事業は、琉球諸語による初の琉球文学テキスト編さん事業となることから、将来的には國の内外はもとよりアジア・ヨーロッパを含めた海外から研究者が沖縄に参集し、沖縄文化研究の活性化につながる。また地域創生の事業としても位置づけられる。

名桜大学は小さな公立大学である。しかし、本事業は本学がエンジンとなり沖縄県の国公立大学（三十余名の校注者）等との連携を図りながら、推進している。また、産学連携事業として、「琉球文学大系」産学連携長期プロジェクト事業調印式（二〇一二年十一月二十六日）を本学にて執り行った。その産学連携の趣旨に応えて協働事業者となつてくださったのが、ゆまに書房である。同社はこの文化事業の意義を認識し、産学連携による社会貢献の意義を認め、本事業に取り組んでくださることになった。「ゆまに書房には深く感謝を申し上げる。

読者にとって「琉球文学大系」は、沖縄人のアイデンティティの源泉へと導く道標となるであろう。研究者にとって、これから先明らかにされる新知見を積み上げていく土台となるであろう。本刊行事業を率いた波照間永吉先生は、「琉球文学大系」が百年も二百年先も輝きを放ち続けるのは悲しい、五十年ほどであれば良いかな」と云う。この言葉には、琉球文学研究の継承への思いが現れていて、研究者の一人として共鳴させられた。

琉球文学研究一一〇年。琉球文学のテキストを初めて集大成。

● ゆまに書房創業五〇周年記念出版

● 名桜大学創立二五周年、公立大学法人化一〇周年記念事業

▲本書を推薦します▼

○青い海いろの「うちなーぐち」

中西 進 〔国際日本文化研究センター〕 名譽教授

藤井貞和 〔詩人〕 名譽教授

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

高良倉吉 〔琉球史〕 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

沖縄の「うちなーぐち」が語る世界を、あの群青の海に包まれた聖なる風土への賛歌だと、わたしは考える。口に対することは音色と、すべて群青色だ。しかも平板に会話をしたり、散文を織つたりしても、ことばはすべて、歌つていて群青色だ。この群青色の波のことばを、「うちなーぐち」とよぶのだと、わたしには思えてならない。

「琉球文学大系」全三十五巻は、この青い海いろのことばの全容を示すはずである。

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

渡具 知伸 〔編集刊行事務局長〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

佐藤 優 〔作家・名桜大学准任教官〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

赤嶺 守 〔琉球大学名譽教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

山里 純一 〔名桜大学大学院教授〕

○琉球文学分野が 主導する事業の意義

小嶋 洋輔 〔名桜大学教授〕

○

全二十五巻の構成

第一巻

おもろさうし 上

2022年3月刊行予定

ISBN978-4-8433-6240-2

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』十一~二十巻。

一巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

二巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

三巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

四巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

五巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

六巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

七巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

八巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

九巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

十巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

十一巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

十二巻。

【校注】波照間永吉【収録】『おもろさうし』一~十一巻。

十三巻。

十四巻。

十五巻。

十六巻。

十七巻。

十八巻。

十九巻。

二十巻。

二十一巻。

二十二巻。

二十三巻。

二十四巻。

二十五巻。

二十六巻。

二十七巻。

二十八巻。

二十九巻。

三十巻。

三十一巻。

三十二巻。

三十三巻。

三十四巻。

三十五巻。

三十六巻。

三十七巻。

三十八巻。

三十九巻。

四十巻。

四十一巻。

四十二巻。

四十三巻。

四十四巻。

四十五巻。

四十六巻。

四十七巻。

四十八巻。

四十九巻。

五十巻。

五十一巻。

五十二巻。

五十三巻。

五十四巻。

五十五巻。

五十六巻。

五十七巻。

五十八巻。

五十九巻。

六十巻。

六十一巻。

六十二巻。

六十三巻。

六十四巻。

六十五巻。

六十六巻。

六十七巻。

六十八巻。

六十九巻。

七十巻。

七十一巻。

七十二巻。

七十三巻。

七十四巻。

七十五巻。

七十六巻。

七十七巻。

七十八巻。

七十九巻。

八十巻。

八十一巻。

八十二巻。

八十三巻。

八十四巻。

八十五巻。

八十六巻。

八十七巻。

八十八巻。

八十九巻。

九十巻。

九十一巻。

九十二巻。

九十三巻。

九十四巻。

九十五巻。

九十六巻。

九十七巻。

九十八巻。

九十九巻。

一百巻。

一百一巻。

一百二巻。

一百三巻。

一百四巻。

一百五巻。

一百六巻。

一百七巻。

一百八巻。

一百九巻。

一百十巻。

一百十一巻。

一百十二巻。

一百十三巻。

一百十四巻。

一百十五巻。

一百十六巻。

一百十七巻。

一百十八巻。

一百十九巻。

一百二十巻。

一百二十一巻。

一百二十二巻。

一百二十三巻。

一百二十四巻。

一百二十五巻。

一百二十六巻。

一百二十七巻。

一百二十八巻。

一百二十九巻。

一百三十巻。

一百三十一巻。

一百三十二巻。

一百三十三巻。

一百三十四巻。

一百三十五巻。

一百三十六巻。

一百三十七巻。

一百三十八巻。

一百三十九巻。

一百四十巻。

一百四十一巻。

一百四十二巻。

一百四十三巻。

一百四十四巻。

一百四十五巻。

一百四十六巻。

一百四十七巻。

一百四十八巻。

一百四十九巻。

一百五十巻。

一百五十一巻。

一百五十二巻。

一百五十三巻。

一百五十四巻。

一百五十五巻。

一百五十六巻。

一百五十七巻。

一百五十八巻。

一百五十九巻。

一百六十巻。

一百六十一巻。

一百六十二巻。

一百六十三巻。

一百六十四巻。

一百六十五巻。

一百六十六巻。

一百六十七巻。

一百六十八巻。

一百六十九巻。

一百七十巻。

一百七十一巻。

一百七十二巻。

一百七十三巻。

一百七十四巻。

一百七十五巻。

一百七十六巻。

一百七十七巻。

一百七十八巻。

一百七十九巻。

一百八十巻。

一百八十一巻。

一百八十二巻。

一百八十三巻。

一百八十四巻。

一百八十五巻。

一百八十六巻。

一百八十七巻。

一百八十八巻。

一百八十九巻。

一百九十巻。